

ALL ABOUT ISHIGURO

創業80周年記念特別編集
イシグロ事典



ISHIGURO

ALL ABOUT ISHIGURO 創業80周年記念特別編集◎イシグロ事典

ALL ABOUT ISHIGURO

the
establishment
of company

∞
80TH
ANNIVERSARY

イシグロ株式会社

本社

〒104-0032
東京都中央区八丁堀4丁目5番8号

グループ会社

株式会社MIEインターナショナル

星川高科貿易(上海)有限公司

PT. ISHIGURO INDONESIA

ISHIGURO MYANMAR CO., LTD.

サンエス管材株式会社

新興金属株式会社

五光山彦株式会社

新町管材株式会社

山形新興機材株式会社

株式会社三州機工商会

第一鋼管株式会社

ALL ABOUT ISHIGURO

創業80周年記念特別編集
イシグロ事典

80周年に向けて……02
代表取締役社長 石黒克司

ISHIGURO HISTORY

ISHIGURO 80 YEARS……04

ISHIGURO DEVELOPMENT……06

1939-1969 創業～発展期……08

1970-1989 オイルショックからバブルへ……10

1900-1999 近代化・安定化の時代……12

2000-2008 足元を固める雌伏の時……14

2009-2018 世界を視野に未来へ……16

歴代社長の業績……18

ISHIGURO PROFILE……20

ロゴマークの変遷……22

ISHIGURO POWER……23

イシグロを支える社員たち

イシグログループのネットワーク……30

イシグロを貫く理念 [社是]……32

GROUP POWER……33

海外拠点……34

MIE インターナショナル

星川高科貿易(上海)有限公司

PT.ISHIGURO INDONESIA

ISHIGURO MYANMAR CO.,LTD.

サンエス管材株式会社……36

新興金属株式会社……37

五光山彦株式会社……38

新町管材株式会社……40

山形新興機材株式会社……40

株式会社三州機工商会……41

第一鋼管株式会社……41

定款……42

MEMORIES……43

人を育て、人に生かされてきた80年

ISHIGURO

80TH
ANNIVERSARY

時代を超えて連綿と受け継がれる力を
この先の未来へ向けて



多くの方々に助けられ、支えられ、おかげさまで、良い形で創業80周年を迎えることができました。私が社長に就任した17年前には大きな不良債権があり、70周年は無我夢中で迎えることになりましたが、それが今の成長力の原点となっています。80年という年月は、人の一生分あります。簡単に想像できない長さですが、多くの先輩社員やお取引先の皆様のご支援・ご協力があって、今のイシグロがあります。これまでイシグロを支えてくださった皆様に心から感謝申し上げたいと思います。

現社員の皆さんには、80周年という記念の節目で、これまで多くの先輩たちが築き上げてこられた歴史を今一度振り返ってもらいたいと思います。80年の長い歴史の中では、グループ会社も増え、その創業者や経営者、そして社員の方々の思いのバトンも受け取ってきました。いろいろな人の思いの積み重ねで今があるということを決して忘れずにこれからも前を向いて進んでいきたいと思っています。

人は、年老いて体力的に弱ってきますが、企業は違います。80を過ぎても100を過ぎてもますます元気に成長を続け、力強い企業でいることができます。それは、個の力であり、チームの力であり、時代を超えて連綿と受け継がれる力があってこそ実現できることです。

イシグロにはイシグロスピリッツがあります。愚直で真面目に、そして常に前向きに仕事に取り組み、困難な時には一致団結した家族のように立ち向かい、乗り越えた時には一緒に喜びを分かち合う。このイシグロスピリッツでいくつもの困難に打ち勝ち80周年を迎えることができました。これからも時代の大きな変化の波を乗り越えて、さまざまなことにチャレンジしていきたいと思っています。

代表取締役社長
石黒克司
Katsuji Ishiguro

ISHIGURO

イシグロが歩んだ80年。

業界に先駆けた施策をつぎつぎと打ち出し、配管機材の総合商社として成長を続け、人々の暮らしと産業の発展に貢献。

80 YEARS

2017 May

ミャンマー・ヤンゴンに
ISHIGURO MYANMAR CO., LTD. を設立



2011 Nov.

新北九州営業所竣工



2012 Feb.

(株) MIE インターナショナル・
星川高科貿易(上海)有限公司
がグループ企業となる



2013 Oct.

インドネシア・ジャカルタに
初の海外在庫販売拠点として、
PT.ISHIGURO INDONESIA を設立

2001 Oct.

品質管理・技術部門
「千葉ラボラトリー」棟の
新築完成



1982 Apr.

営業拠点拡大を目指す
「長期10カ年計画」を
発表

1989 Mar.

第3代
石黒雅昭社長が就任



1950 Apr.

八丁堀にて
石黒バルブ株式会社を
設立(資本金200万円)

1954 Aug.

東洋バルブ株式会社の
指定特約店、続いて
北村バルブ株式会社の
代理店となる

1966 Aug.

初の地方拠点、
札幌営業所を開設

1939 Feb.

初代・石黒孔司社長が
「石黒商店」を興し、
月富士バルブの
製造販売を開始



1974 Nov.

第2代
石黒安廣社長が就任



1990 Apr.

第一次海外研修を実施
(タイ・バンコク・シンガポール)

Oct.

業界初、週休2日制を施行

1991 Jun.

新本社ビル竣工
(東京都中央区
八丁堀4丁目8番10号)

1993 Apr.

石黒バルブ株式会社から
イシグロ株式会社へと
社名変更



1995 Feb.

在庫管理を
オンラインでつなく
「東京ステーション」
新ビル竣工



2002 Apr.

第4代
石黒克司社長が就任

2004 Apr.

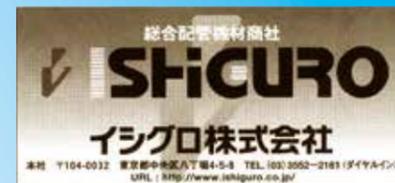
本社移転
(東京都中央区八丁堀
4丁目5番8号
ノワール八丁堀ビル)

2007 Oct.

大阪ステーション新設

2008 May

創立70周年記念旅行



ISHIGURO

80TH ANNIVERSARY

2018 Mar.

グループ会社、五光商会・
山彦・中部機材が合併し、
五光山彦(株)となる



2014 Nov.

独自に調達した高品質製品、
プライベートブランド商品、
加工サービスまでを網羅
した新ブランド「iValue」
の展開を開始

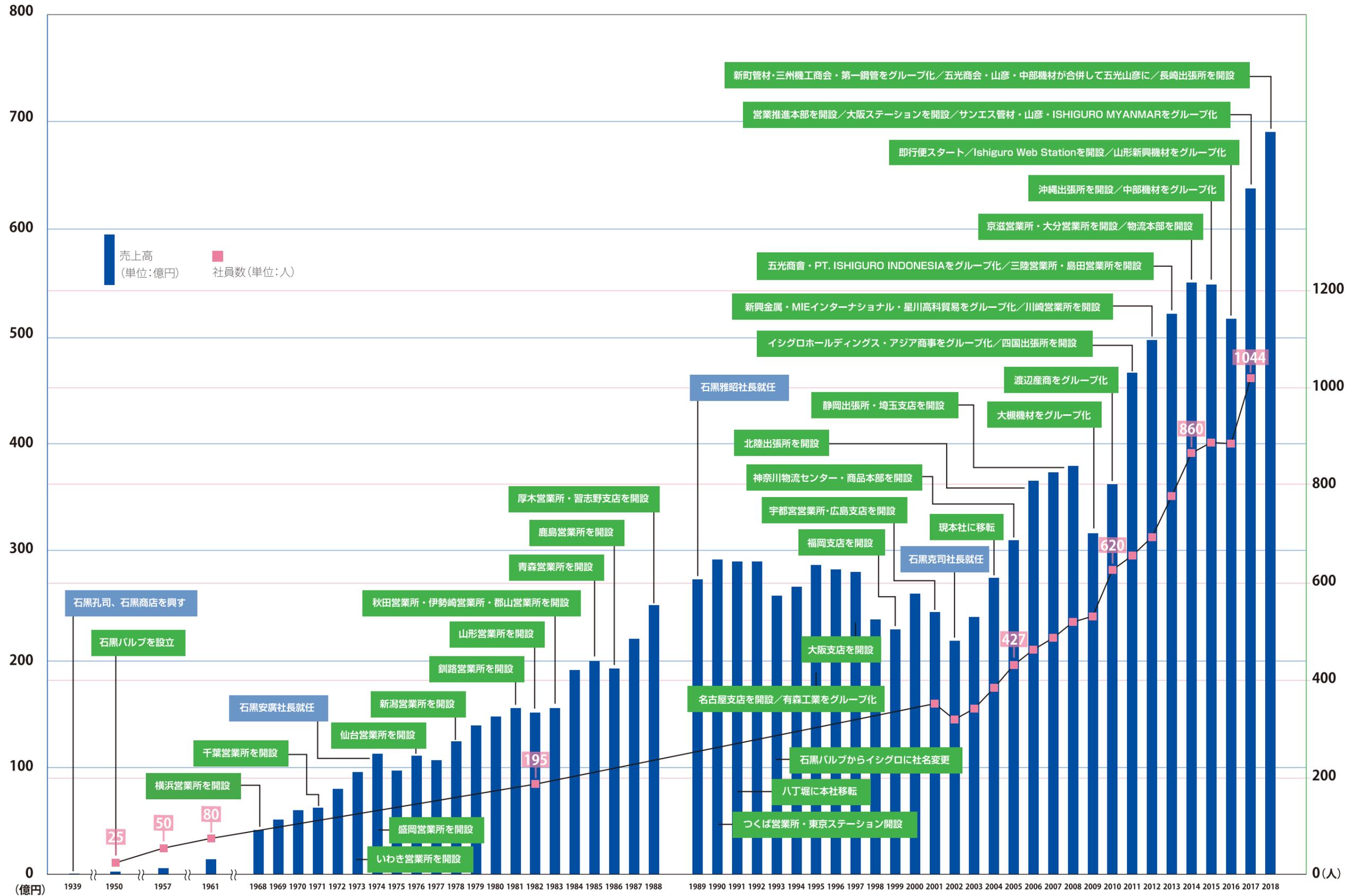
2016 Apr.

24時間365日の注文受付が可能な
インターネット販売用サイト
「ISHIGURO webstation」をオープン



ISHIGURO DEVELOPMENT

イシグログループ80年の売上高・社員数の推移



創業～発展期 1939-1969



戦時下に創業
敗戦の混乱をものともせず
社業の基盤を築くとともに
戦後復興を支え続ける

日中戦争のさなかにあり、第二次世界大戦が勃発する直前の1939年(昭和14年)冬、「石黒商店」の名で現在のイシグロ株式会社(株)の歴史は幕を開けた。当初は「月富士バルブ」のブランドを冠したバルブの製造販売で、創業から5年足らずで急速に社業を伸ばすことに成功。そして戦後は業界の波をいち早く捉えて販売業一本にシフトし、配管機材の総合商社へと成長する礎を築いていった。時代は下って1966年(昭和41年)。初の地方拠点を札幌に構え、高度経済成長時代の追い風も全身に受け、拡大を続けてゆく。

1939

2 東京都北区田端新町において、石黒孔司個人にて石黒商店を興し、月富士バルブの製造販売を営む

4 東京都中央区西八丁堀に移転し、石黒バルブ(株)を資本金200万円にて設立。石黒孔司、代表取締役社長に就任する。年商6000万円、社員数25名同時に月富士バルブ生産部門の独立を図り、大田区糀谷町において月富士バルブ製作所を創設し、協力工場とする

8 (株)中西可鍛鉄所「NKT印鉄管継手」の販売に関して、関東総代理店となる

8 東洋バルブ(株)の指定特約店、続いて北村バルブ(株)「KVK水栓」の代理店、極東機械製作所「ポンプ」の代理店となる

5 日本弁管工業(株)「BENKAN溶接用鋼管継手」の特約店制を敷くに当たり、特約店契約を結ぶ

8 資本金を500万円に増資。年商4億円、社員数50名

9 第二次世界大戦勃発。英・仏が独に宣戦

10 価格等統制令実施

3 米国務省、日中貿易を許可

6 朝鮮戦争勃発

7 米マツカーシイズムによるGHQの反共政策で、日本でもレッドパージ始まる

7 株式市場が大盛況。特需景気が始まる

○京都の金閣寺が全焼する

1939

1939

9 第二次世界大戦勃発。英・仏が独に宣戦

10 価格等統制令実施

3 米国務省、日中貿易を許可

6 朝鮮戦争勃発

7 米マツカーシイズムによるGHQの反共政策で、日本でもレッドパージ始まる

7 株式市場が大盛況。特需景気が始まる

○京都の金閣寺が全焼する

4 外国為替銀行法公布。大阪にて第1回日本国際見本市開催

7 経済企画庁発足。下期より神武景気て好況を呈す

5 鍋底景気の不況時代へ

3 関門トンネル開通

12 1万円札発行

東京タワー完工

1 メートル法が完全実施される

4 皇太子殿下ご成婚

9 ドルが替目自由化

○岩戸景気

5 自民党の新安保条約強行採決で安保騒動起こる

10 東京・大阪・名古屋の証券取引所で第2部新設。株式大暴落で、金詰まり深刻化

9 貿易自由化率が88%になる

7 名神高速道路、尼崎〜栗東間が開通

ドル防衛に関するケネディ教書により株価暴落

11 ケネディ暗殺

人口一億人突破

11 東証ダウ平均株価、戦後最大の暴落

6 小笠原諸島返還

10 東証ダウ平均株価、市場最高値

○GNP(国民総生産)1428億ドルで、米国につき第2位となる

1 東大安田講堂で学生と機動隊が衝突

5 東名高速道路、東京〜西宮間で全線開通

6 日本初の原子力船「むつ」進水

7 米国のアポロ11号、初の月面着陸に成功

1969

4 三由鉄工所と「高温高圧用鍛造バルブ継手」について代理店契約を結ぶ

2 日本ダイヤバルブ工業(株)と「ボールバルブ」の販売に関する特約店契約を結ぶ

住友商事(株)と「住友水道用銅管」並びに「P.F印銅管継手」の代理店契約を結ぶ

(株)在原製作所と特約店契約を結ぶ

1969

4 三由鉄工所と「高温高圧用鍛造バルブ継手」について代理店契約を結ぶ

2 日本ダイヤバルブ工業(株)と「ボールバルブ」の販売に関する特約店契約を結ぶ

住友商事(株)と「住友水道用銅管」並びに「P.F印銅管継手」の代理店契約を結ぶ

(株)在原製作所と特約店契約を結ぶ



石黒孔司社長の取材記事



昭和32年社員旅行 箱根十国峠にて



昭和48年頃の本社界隈、昼休み風景



昭和38年頃の本社。手前の道路は新大橋通り



昭和48年頃の事務所風景



昭和43年開設 横浜営業所



昭和46年開設 千葉営業所



昭和48年開設 いわき営業所



昭和49年開設 盛岡営業所



移転当時の八丁堀本社界隈



八丁堀に移転してまもなくの本社社屋



初代 代表取締役社長 石黒孔司

- 7 3 5 4 3 9 10 11 9 10 8 7 7 4 10 8 7 4 2 2 1
- 7 横浜営業所を横浜支店に昇格
- 3 千葉営業所を千葉支店に昇格
- 5 厚木営業所開設
- 4 習志野商品管理センター開設。習志野支店開設
- 3 社長石黒安廣逝去につき、石黒雅昭が社長に就任
- 9 三菱商事(株)との取引開始
- 9 鹿島営業所開設
- 10 青森営業所開設
- 11 仙台営業所を仙台支店に昇格
- 9 定款を改正
- 10 伊勢崎営業所開設
- 8 いわき営業所移転
- 7 郡山営業所開設
- 7 (株)イシグロ、親会社石黒バルブ(株)の配管材料を販売開始
- 4 秋田営業所開設
- 10 久保田鉄工(株)製「塩ビバルブおよび合成管」の特約店となる
- 4 昭和機設(株)、資本金2000万円に増資
- 10 長期10カ年計画を発表
- 8 山形営業所開設。社員数195名。団指定店となる
- 7 釧路営業所開設
- 4 札幌営業所を札幌支店に昇格
- 7 久保田鉄工(株)製「塩ビバルブおよび合成管」の特約店となる
- 2 新潟営業所開設
- 4 (株)日立製作所「汎用ポンプ」の特約店となる
- 2 (株)赤萩フランチ製作所「フランジ」の販売に関し特約店となる
- 1 定款を改正

- 4 3 8 6 11 9 4 11 12 8 9 7 6
- 4 資本金6250万円(授權資本金2億円)に増資
- 11 盛岡営業所開設
- 4 社長石黒孔司逝去につき石黒安廣が社長就任
- 8 定款を改正
- 6 資本金1億円(授權資本金2億円)に増資
- 3 (株)イシグロ、セメント販売を開始
- 8 定款を改正
- 4 仙台営業所開設
- 4 グループ企業の昭和機設(株)、通産大臣より日本工業規格の表示(367010)の許可を取得
- 9 北村バルブ製造(株)とダイヤフラム弁ボールバルブの販売に関し特約店契約を結ぶ
- 7 巴バルブ(株)と「バタフライ弁」販売に関し特約店契約を結ぶ
- 8 三井物産(株)と「神鋼配管用銅管および継手」に関し特約店契約を結ぶ
- 12 市原市に千葉営業所開設
- 12 (株)イシグロ、長野市に資本金1000万円にて創設
- 11 いわき営業所開設

オイルショックからバブルへ 1970-1989



昭和50年代の主力製品

- 1989 1988 1986 1985 1984 1983 1982 1981 1979 1978 1977 1976 1975 1974 1973 1972 1971 1970
- 6 1 昭和天皇崩御
- 6 中国・北京で天安門事件
- 3 青函トンネル開業
- 4 東京ドーム完成
- 4 瀬戸大橋開通
- 6 リクルート疑惑発覚
- 8 日航機墜落事件
- 4 チェルノブイリ事故
- 3 グリコ・森永事件発生
- 8 大韓航空機が撃墜される
- 4 日本海中部地震発生
- 5 大韓航空機が撃墜される
- 4 東京デイズ・シーランド開園
- 2 ホテルニュージャパんで大火災
- 7 北方領土の日制定
- 3 レーガン大統領暗殺未遂
- 7 英国チャールズ皇太子、ダイアナと結婚
- 5 外貨持ち出し制限撤廃
- 5 日本、世界一の長寿国に
- 5 新東京国際空港(成田)開港
- 5 「サンシャイン60」完成
- 6 東京サミットが開催
- 2 石油パニック、物価高騰。不況が深刻化する。
- 7 LSIが組み込まれた小型計算機登場
- 4 ベトナム戦争終結
- 11 第1回先進国首脳会議開催
- 11 公務員による戦後最大のスト
- 7 ロッキード事件で田中前首相逮捕
- 9 ソ連戦闘機ミグ25函館に強行着陸
- 2 ニクソン大統領、ドル防衛措置を発表(ドルショック)
- 3 日本万国博覧会開幕。77カ国が参加する
- 9 万博閉幕。入場者6,421万人で史上最高を記録
- 8 ニクソン大統領、ドル防衛措置を発表(ドルショック)



商品管理部の事務室風景



当時のバルブ製品群



昭和60年の商経管材新聞。青森営業所の開設が紹介される。

昭和57年の日経産業新聞。長期10カ年計画に伴い急速に売上高を伸ばしたことで、「ナンバーワン販売店」として紹介される。



八丁堀本社の商品管理部



商品管理部の倉庫



慶応義塾大学ラグビー部時代の石黒安廣社長

東北へ進路をとれ

発展の兆し、先取り

石黒バルブのネライ

石黒安廣社長に聞く

昭和59年の日刊工業新聞に掲載された石黒安廣社長のインタビュー

盛大に披露パーティー

山形営業所開設

創業者石黒孔司の遺志は、石黒安廣(右)、石黒雅昭(左)と受け継がれてゆく。

昭和57年の商経管材新聞に山形営業所の開設が紹介される。写真下はその全景

第二代 代表取締役社長 石黒安廣

昭和51年頃使われた会社案内。従業員160名、年間売り上げ130億円也

ドルショック、オイルショックを乗り越えて時代はバブルへ 長期10カ年計画で東北へと躍進 バブル期は慎重路線へ舵を切る

高度経済成長が石油危機のあおりを受けて完全に失速した70年代。国内外の建設業不振は、当然ながら管業界にも深刻な影響を及ぼした。さらに、今へと続くエネルギーや環境の問題が顕在化し、産業構造自体の再構築が求められた。そんな状況を打開すべく石黒バルブは思い切った手に打って出た。それが「長期10カ年計画」。

13か所だった拠点を東北を中心に28か所まで拡大する計画は、大いに業界の話題をさらい、バブル期には逆に計画を緩和するなど、時代への「読み」が石黒バルブの未来を拓く糧となった。

- 7 業績連動型賞金制導入
- 6 ㈱イシグロ、資本金5000万円に増資
- 4 ㈱イシグロ福岡支店開設
- 8 第2次オンラインシステム、カットオーバー
- 4 3 ㈱イシグロ、大阪支店開設
- アイヴィ・プロダクツ㈱
- 資本金1億3720万円に増資
- 12 2 仙台支店新築
- 営業管理部創設、収益管理強化
- 7 ㈱イシグロ、大阪支店開設
- 有森工業㈱(本社・北九州市)、イシグログループ会社となる
- 社是定まる
- 6 第5次海外研修(シンガポール、バンコク)実施
- 東京ステーション新ビル竣工
- 3 2 管理部門創設、与信管理強化
- グループ制導入。㈱イシグロ、名古屋支店開設
- 4 3 2 ㈱イシグロ、名古屋支店開設
- グループ企業アイヴィ・プロダクツ㈱、資本金3000万円にて創設
- 5 4 3 2 第4次海外研修(シンガポール、バンコク)実施
- ㈱イシグロ、松本支店開設
- 8 6 4 3 水島出張所を岡山営業所に昇格
- 幹部社員契約に年俸制導入
- 4 石黒ハルブ(株)からイシグロ(株)へ社名を変更
- 就業規則および社内規程の改正を行う
- 住友金属(株)と取引開始
- 支店・営業所、独立採算制導入
- 11 8 7 水島出張所開設
- 定款を改正
- 横浜支店改装、立体倉庫と電動リフト導入
- 4 石黒ハルブ(株)からイシグロ(株)へ社名を変更
- 就業規則および社内規程の改正を行う
- 住友金属(株)と取引開始
- 支店・営業所、独立採算制導入
- 12 9 6 創立55周年祝典
- 定款を改正
- 4 石黒ハルブ(株)からイシグロ(株)へ社名を変更
- 就業規則および社内規程の改正を行う
- 住友金属(株)と取引開始
- 支店・営業所、独立採算制導入
- 11 8 7 水島出張所開設
- 定款を改正
- 横浜支店改装、立体倉庫と電動リフト導入

- 4 つくば営業所開設
- 虚礼廃止および接待を受けることを禁止する
- 第1次海外研修(タイ、バンコク、シンガポール)実施
- 習志野商品管理センターを東京ステーションと改名
- 即伝システム導入と第1次電算化
- 主要仕入先とのVAN LINE LINK開始
- 6 八丁堀商品管理(倉庫)を東京ステーションに移転
- 8 第2次海外研修(シンガポール、バンコク)実施
- 業界初、週休2日制を施行
- 10 新本社ビル竣工、東京都中央区八丁堀4丁目8番10号に移転。事務管理部が電算部に改名
- 7 第3次海外研修
- (オーストラリア・ケアンズ)実施
- 8 社員教育制度を制定
- 第1次営業マン研修を幕張メッセ海洋研修センターにて行う
- ㈱I N A Xと取引開始
- 12 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任
- 10 TBS特派員の秋山豊寛、日本人初の宇宙飛行
- ハブル経済崩壊
- 2 南アの反アパルトヘイトの象徴マンデラ氏が釈放

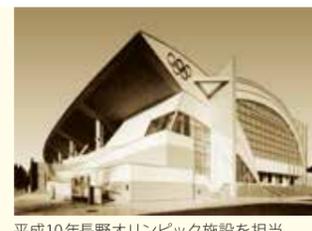
近代化・安定化の時代 1990-1999



| 1999 | 1998 | 1997 | 1996 | 1995 | 1994 | 1993 | 1992 | 1991 | 1990 |
|------------------|--------------------|-------------------|-----------|----------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------|--------------|----------------------------------|
| 5 日本でのトキの人工孵化に成功 | 3 ユーゴスラビアをNATO軍が爆撃 | 12 地球温暖化防止京都会議が開幕 | 7 香港、中国返還 | 11 ウィンドウズ95発売、爆発的な売れ行きを示す | 12 原子炉「もんじゅ」がナトリウム漏洩事故を起こす | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 11 米大統領選でクリントン氏勝利 | 1 湾岸戦争勃発 | 2 南アの反アパルトヘイトの象徴マンデラ氏が釈放 |
| | | | | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 | 12 TBS特派員の秋山豊寛、日本人初の宇宙飛行 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 | 11 米大統領選でクリントン氏勝利 | 4 新宿の新都庁舎が開庁 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 9 長崎県島原半島の雲仙・普賢岳噴火が、戦後最大の火山災害に発展 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 7 北海道南西沖地震発生 | 7 北海道南西沖地震発生 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 11 米大統領選でクリントン氏勝利 | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 5 ジャリーグ発足 | 5 ジャリーグ発足 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 3 細川連立政権誕生、自民党の一党支配に終止符 | 3 細川連立政権誕生、自民党の一党支配に終止符 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 12 米の部分自由化 | 12 米の部分自由化 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 全米科学財団がインターネットに新高速システム導入 | 全米科学財団がインターネットに新高速システム導入 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 細川、羽田、村山と相次ぐ政権交代 | 細川、羽田、村山と相次ぐ政権交代 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 北朝鮮のキム・イルソン主席が死去 | 北朝鮮のキム・イルソン主席が死去 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 阪神・淡路大震災 | 阪神・淡路大震災 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 地下鉄サリン事件 | 地下鉄サリン事件 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 1ドル79円75銭と円高 | 1ドル79円75銭と円高 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 戦後最高値 | 戦後最高値 | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | オウム真理教の麻原彰晃が逮捕される | オウム真理教の麻原彰晃が逮捕される | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |
| | | | | 0157患者が大量発生する | 0157患者が大量発生する | 8 ゴルバチョフ大統領失脚、ソ連崩壊 | 9 日本人初の宇宙飛行士毛利衛、宇宙へ | 4 湾岸戦争勃発 | 10 前年のベルリンの壁崩壊でドイツ再統一。コール氏が首相に就任 |



平成13年10月品質管理・技術部門として、千葉ラボラトリーが稼働



平成10年長野オリンピック施設を担当



最寄り駅日比谷線八丁堀の電飾看板



海外研修



シンボルマークも一新



平成2年配送・在庫機能を強化



第三代 代表取締役社長 石黒雅昭

【私が見た「石黒雅昭」】
イシグロのモダン化を進め大胆な構図を描く。

雅昭社長に、一度もの凄く怒られたことがあります。それは私が新潟支店を管轄していた時のこと。ある日電話がかかってきて、出てみると「なぜ、新潟では統一したユニホームを着させないんだ」と。しまった！と思いました。とても体裁を大切に人でしたから。総合社を目指し今の社名にしたのも雅昭社長。ロゴなどCI変更も自ら指揮し、その非凡なセンスを発揮されました。

感銘を受けたのは、図(戦略)を描く感覚。全体の構図を決めてから入るタイプの人でしたが、それが速い。そして決めたらすぐに行動に移って突っ走る。イシグロのモダン化に大きく貢献された人でした。

業務監査室室長/新井紀行

60周年記念誌の撮影時、現・本社にて

70周年記念誌より再掲



平成7年東京ステーション新ビル竣工



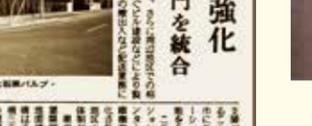
高性能な自動弁が 続々登場



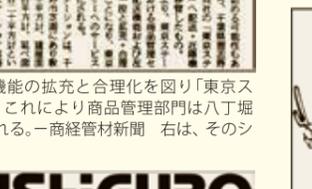
ブライベイトブランド商品



システムキッチンなどの住宅設備から、店舗・オフィスビルの空調設備まで、取扱い製品を幅広く展開



平成3年の本社ビル完成を告知した 商経管材新聞広告



営業マン研修



社内定期研修



昭和の終わり頃まで掲載された業界紙向け広告

「イシグロ」と社名を改め 経営をより近代化 バランスのとれた企業体を構築し 21世紀に向けて安定企業を目指す

バブル期後半から、賢明にも先行投資計画を見直したことで企業としての体力を温存し、イシグロはバブル後長く続いた平成不況の影響を最小限に納めることに成功している。主力のバルブ・継手のみに留まらず、さらなる業務の飛躍を見据えて 1993年には会社設立以来使い続けてきた石黒バルブから「イシグロ」に社名を変更。さらに業務の効率化はもちろん、人材育成やオンラインなどの設備の整備を推進。新しい世紀に次代に継承するため、安定化・強化路線に取り組んでいく。

足元を固める 雌伏の時 2000-2008



- 60周年記念行事実施
- 宇都宮出張所開設
- イシグロ(株)千葉支店事務所棟及び千葉ラボラトリー棟新築完成
- 神奈川配送センターを開設
- 広島支店開設
- イシグロ(株)とイシグロが経営統合し新生「イシグロ株式会社」となる
- 資本金1億5000万円に増資
- 石黒克司が社長に就任
- 管工事業 許可取得
- イシグロ(株)と石黒商事(株)が合併、イシグロ(株)が存続会社となる
- 合併後の資本金2億3560万円(授權資本金5億円)
- 営業三部三課新設
- 横浜支店移転
- つくば営業所移転、業務監査室・営業開発部新設
- 本社移転
- 新住所 東京都中央区八丁堀4・5・8ノール八丁堀ビル
- 商品開発部新設。新人事処遇制度制定
- 創立65周年記念旅行実施
- イシグロ(株)と有森工業(株)が経営統合
- 東京ステーションパイプ倉庫新設
- 厚木営業所を神奈川支店に昇格
- 商品本部新設。本社営業三部四課新設
- 新販売システム導入
- 福岡支店移転
- 宇都宮出張所を宇都宮営業所に昇格
- ドイツUPONOR社と日本総販売代理店契約締結
- ELMY SYSTEM 商標登録
- 広島支店移転
- 釧路営業所事務所新設
- 商品本部内に物流部新設
- 北陸出張所開設
- スウェーデンTATour & Anderson社、アメリカFlow Design Inc.と
- 日本総販売代理店契約締結
- 広島支店移転
- 本社営業三部五課新設
- 横浜支店移転
- つくば営業所移転
- 大阪支店移転
- 大阪営業部新設
- 大阪ステーション新設
- 静岡出張所開設
- 埼玉支店新設
- 創立70周年記念旅行実施

- | 2008 | 2007 | 2006 | 2005 | 2004 | 2003 | 2002 | 2001 2000 |
|--|--|---|---|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 11 米大統領にオバマ氏当選 9 米リーマン・破綻でサブプライム問題さらに深刻化 7 北海道洞爺湖サミット開催 6 米リーマン・破綻でサブプライム問題さらに深刻化 | <ul style="list-style-type: none"> 1 中国の国内総生産(GDP)4年連続で2桁成長 4 パーシニア工科大学で銃乱射事件発生 9 L・バヴァロッティ氏、死去 9 L・バヴァロッティ氏、死去 12 パキスタン・ブット元首相暗殺 | <ul style="list-style-type: none"> 1 ライブドア堀江社長逮捕 3 第1回WBCで、日本が優勝 7 北朝鮮がテポドンなど弾道ミサイルを日本海へ向け連射 10 ティープインバクト三冠制覇 11 耐震強度偽装事件が発覚 | <ul style="list-style-type: none"> 3 「愛・地球博」が開幕 4 JR福知山線で脱線事故 6 アスベストによる人体被害が問題に 8 つくばエクスプレス線が開通 ハリケーン「カトリーナ」が米ニューオーリンズで猛威 10 ティープインバクト三冠制覇 11 耐震強度偽装事件が発覚 | <ul style="list-style-type: none"> 1 自衛隊イラク派遣開始 3 長崎茂雄氏、脳梗塞で入院 8 アテネオリンピック開幕 10 マリナーズのイチロー選手がメジャー最多安打記録262本を達成 | <ul style="list-style-type: none"> 4 米英イラク侵攻作戦開始 日経平均株価7607円88銭の大底(1982年来の安値) | <ul style="list-style-type: none"> 1 ユーロ紙幣・コイン統一 2 ソルトレイクシティオリンピックが開幕 5 2002サッカーW杯開幕 6 東京都千代田区で全国初の歩きたバコ禁止条例が成立 8 住民基本台帳ネットワーク開始 10 ノーベル物理学賞に小柴昌俊氏 化学賞に田中耕一氏 北朝鮮に拉致被害者が帰国 | <ul style="list-style-type: none"> 7 第26回主要国首脳会議(九州・沖縄サミット)が開催 1 米ブッシュ大統領就任 3 量的金融緩和政策の開始 4 第1次小泉内閣発足 9 アメリカ同時多発テロ事件 11 IC乗車カード「Suica」のサービスが開始 |

右肩下がりの情勢下
財務体制の改善・強化と
組織のスリム化を着々と遂行
飛躍へのベースを固める

金融と経済が低迷し、管材需要も急激に冷え込むなかでイシグロの21世紀は幕を開けた。逆風のなか、第四代社長、石黒克司は2002年の就任とともに抜本的な改革をスタート。「内部体制の強化」を方針に掲げ、財務体制改善と組織のスリム化に乗り出す。グループ会社を統廃合し、無駄を排除して組織を「筋肉質」に鍛え上げると同時に各種の研修を導入。有用な人材を育て上げるための育成システムの整備を進め、増員や拠点の拡大にも着々と取り組み、飛躍のベースを築き上げていく。

【私が見た「石黒克司」】 常に人との集いの中心に。 生まれながらのリーダー。

現社長をひとことで言うなら「人」を大事にする人。もちろん社内外問わずです。克司さんの代になり、新入社員研修を半年近くかけてじっくり行うようになったのも、その表れ。航空会社のインストラクターを講師に招いたりなど、当社にとっては斬新な研修も企画されました。社内でじっとしていることが無い人で、年中飛び回っています。仕入れ先の会合にも積極的で、驚くのは、若い人がなかなかやらない組合の理事を引き受けたりなど、ただ顔を出すだけでなく、その中心にいること。企業のトップが為すべきことを自然体でできる、生まれながらのリーダーなのだと思えます。業務監査室室長/新井紀行



静岡出張所開設披露パーティにて



上：即納体制の円滑化を図る大阪配送センター
下：メーカーとリンクしたウェブサイト



上：平成20年、川越市に埼玉支店を新設/下：出荷を待つ埼玉支店の管材倉庫



取り引き先を招いた交歓会恒例の「感謝の夕べ」も毎年盛況



上：平成20年、静岡出張所を開設
下：静岡出張所の開成式、神前で行うのはイシグロの恒例



平成19年、西日本・九州ブロックの営業基盤強化のため大阪支店を移転、大阪配送センターを新設。写真上は商経管材新聞の紹介記事、写真下は、その告知広告



① マネージメント研修
② 新人フォロー研修



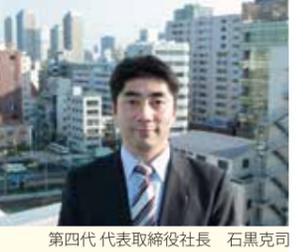
③ キャリアアップ研修
④ 人材育成のため、さまざまな研修を実施



商経管材新聞に定期掲載されている記事中広告



海外研修/上海



第四代 代表取締役社長 石黒克司



平成17年、宇都宮出張所を営業所に昇格。写真は開設披露パーティの様子。上の写真は物流体制の整備を伝える商経管材新聞の記事

- 5 4 3 2 10 5 4 7 4 3 1 11 10 4 4 2 10
- 新町管材(株)がグループ会社となる
- グループ会社、五光商会・山彦・中部機材が合併し、五光山彦(株)となる
- グループ会社渡辺産商をイシグロ(株)に合併・統合、長崎出張所開設
- 京滋営業所移転
- 営業推進本部新設。サンエス管材がグループ会社となる
- 山彦(株)がグループ会社となる
- ミヤンマー・ヤンゴンに「イシグロ・ミヤンマー・カンパニーリミテッド」を設立
- コールセンター新設。大阪ステーションがオープン
- 北陸営業所移転
- 物流・ランディングプロジェクト「即行便」スタート
- 東京・大阪の2大都市圏で土日祝日における配送を拡大
- 大規模機材(株)吸収合併
- 24時間365日の注文受付が可能なインターネット販売専用サイト
- 「ISHIGURO Web Station」をオープン
- 沖繩出張所開設
- 川崎営業所移転
- 岡山営業所を移転
- 三陸営業所開設
- 株式会社五光商會がグループ会社となる
- インドネシア・ジャカルタに初の海外在庫販売拠点として、「イシグロ・インドネシア」を設立
- 島田営業所移転
- 首都圏第四ブロック新設
- 物流本部を新設
- 岡山出張所を岡山営業所へ昇格
- アジア商事(株)吸収合併
- 大分営業所開設
- 京滋営業所開設
- 独自に調達した高品質製管、プライベートブランド商品、加工サービスまでを網羅した
- 新ブランド「i value」の展開を開始

- 8 11 8 4 2 11 8 6 5 4 2 11 11 9 5 5 4 2 11
- 大規模機材(株)、イシグログループ会社となる
- 静岡営業所移転開設
- 中部物流センター(名古屋支店新倉庫)開設
- 横浜支店移転
- 大阪支店移転
- グループ会社として渡辺産商(株)が発足
- 釧路営業所移転
- 北陸出張所移転
- 四国出張所開設
- アジア商事(株)、イシグログループ会社となる
- 新北九州支店竣工
- 東日本大震災
- 東京電力、計画停電を実施
- 女子サッカーのなでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ優勝
- 北朝鮮金正日総書記急死
- 小惑星探査機はやぶさ帰還
- 民主党政権発足
- 東京スカイツリー開業
- 山中伸弥氏ノーベル賞受賞
- 自民・公明衆院選で政権奪還
- 中国国家主席に習近平選出
- 首相、TPP交渉参加を正式表明
- 日銀の黒田総裁、大胆な金融緩和への政策転換を発表、市場に衝撃
- 富士山、世界遺産に登録
- 2020年のオリンピック、東京に決定
- 「ネイチャー」誌にSTAP細胞の論文が掲載。のちに論文データ偽造疑惑発覚
- 「笑っていいとも」最終回
- ジャンボ機引退、大型航空機時代が終焉
- 消費税8%に

世界を視野に 未来へ 2009-2018



M & Aも含めて
果敢に拡大・拡充の道を追
管材総合商社ナンバーワンから
世界への飛躍を期す

顧客から最初に声のかかる「ファーストコール・カンパニー」をスローガンに、物流や営業の基盤をしっかりと拡充しつつ「日本一の管材商社」としての道を邁進。ホールディングス体制のもとM & Aを積極的に推し進めて、規模の拡大と海外への布石も着々。発展著しい東南アジアへの進出を進めて日本という限られた市場から、世界へ。80年間培ってきた実力と、お客さまやメーカーとの信頼の上に立ち、グローバルな展開を見据えた力強い歩みを今日も続ける。

- | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 | 2009 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 6 1 26年ぶりの高値 | 1 1 26年ぶりの高値 |



石黒社長と沖繩出張所スタッフ



2018年Website リニューアル



即行便



北九州営業所



島田営業所



(上) 大阪ステーション (下) 自動パレット1



ISHIGURO Web Station



2015年鉄鋼新聞の記事



三陸営業所



京滋営業所



2017年イシグロ感謝の夕べ



プライベートブランドのアイボール



サンエス管材



(上) 川崎出張所を開設 (右) 管材新聞に掲載された新興金属グループ化の記事



四国アジア商事



組織をよりスリム化
筋肉質に磨き上げ
イシグロをさらなる高みへ



2002～
第四代・代表取締役社長
石黒克司

父・安廣同様スポーツマンで、大学ではヨット部に所属して全日本インターカレッジで優勝している。三菱商事で4年間仕事の基礎を身に付けてイシグロに入社。社長には平成のデフレ不況真ただ中の2002年に就任している。

当時イシグロ自体も非常に厳しい状況にあるなかで、石黒克司は抜本的な改革に着手。最初の3カ年計画で財務体質改善と無駄のない筋肉質の組織づくりを2本柱とする内部体制の強化、次の3カ年計画では成長のための布石として増員と拠点の拡大を、さらに第三次3カ年計画では「配管機材業界でNo. 1になる」ビジョンを打ち出している。

現在ではお客様に真っ先に声をかけていただける「ファーストコール・カンパニー」をキャッチフレーズに、24時間365日の注文受付を可能とするECサイトやデリバリーの「即行便」を展開して即納体制を整備。M&Aによる経営資源の拡充や規模の拡大、成長著しい東南アジアへの展開を見据えた海外拠点開設などにも果敢に取り組み、イシグロイズムの真髄である「新たな挑戦」に日々挑んでいる。



バブル後の平成大不況
影響を最小限に留め
経営の近代化に尽力



1989～2002
第三代・代表取締役社長
石黒雅昭

石黒孔司の次男で安廣の5歳下の弟(1946年生まれ)。1989(平成元)年に社長に就任してまず着手したのは、拠点拡大計画すべての休止だった。時はバブル崩壊前夜。先代先々代に通じる時代を読む嗅覚と決断の速さが、企業体力の保持につながり、バブル後の平成大不況期に逆に安定経営の基盤を築くことを可能にした。

外向きの策を休止する一方で、人材と組織、設備など内側を近代化するチャレンジに取り組んだ。人材育成では海外研修や外部講師を招いての営業マン研修、実務のスキルアップをはかる社内定期研修を実施し、コンサルティング会社を入れて組織運営の見直しを推進。また、オンラインで在庫管理と会計のシステムをつないだ集中管理体制を確立し、倉庫のリニューアルを進めるなどソフト・ハード両面からの近代化を進めていった。さらに住宅設備への本格進出を目指して社名を石黒バルブからイシグロへと変更。ロゴやシンボルマークなどCI戦略を主導してイメージの刷新も進め、あらゆる面から社の近代化に貢献している。



激動の70～80年代
「大胆にして細心」に
10カ年計画を決行



1974～1989
第二代・代表取締役社長
石黒安廣

1941(昭和16)年、石黒孔司の長男として生まれた。慶応大学時代にはラグビー部に在籍し、オールジャパンにも選ばれたラグーマンである。

岩手県のバルブメーカーで修業後、1964(昭和39)年に石黒バルブへ就職。社長に就任したのは、インフレの進行とオイルショックで高度成長が失速していた1974(昭和49)年。

苦難の年月を支えた後、1981(昭和56)年、業界を覆う不振と低迷の中に明るい兆しを感じ取って、業界の話題をさらう積極的な施策に打って出る。打ち上げたのは東北地方を中心に10年間で営業拠点を28か所に拡大する大計画で、石黒安廣最大の挑戦であり、後の事業の発展を支えることになる最大の功績でもあった。拡大と同時に狙ったのは直販体制の確立。根気強く共存のメリットを既存の販売店に説いて地域に根を下ろし、日本全国に強固な基盤を築いていった。

計画の後半はバブル期と重なるが、「大胆にして細心」といわれた石黒安廣はバブルには躍らず、逆に計画推進の手を緩めている。



希代の経営感覚で
一代で企業を育て上げた
辣腕事業家



1939～1974
初代・代表取締役社長
石黒孔司

金属加工業で名高い新潟県燕市で1916(大正5)年に生まれ、1939(昭和14)年に「石黒商店」を創業。最初は妻と義父とで始めた個人商店を、一代で業界をリードする存在にまで育て上げた辣腕事業家である。

1950(昭和25)年、個人商店から株式会社に改組して八丁堀に本社を構えた時点で社員25名、年商6千万円。1961(昭和36)年には社員80名、年商11億円と、敗戦直後の停滞期以外、彼の経営のもとで事業は目を瞠るほど拡大の一途をたどった。戦時下の旺盛な需要、戦後復興期の建設ブーム、さらに高度成長期という追い風はあったが、石黒孔司の時代の先を読む嗅覚、変化をいとわず果敢に攻めに行く姿勢、問題の核心をとらえて瞬時に決断を下すスピード感ある経営が、追い風の何倍何十倍もの成果をもたらした。

積極攻勢の一方で、顧客とメーカーを大切に信頼を勝ち得たことも、特筆すべき功績の一つだ。この信用がやがてバルブや配管資材を中心とした総合商社として、日本ナンバーワンの企業を目指す足取りを支えることになる。

ISHIGURO PROFILE 2018

Head Office
本社



東京と大阪の2大ステーションから、確かな品をスピーディーに日本全国へ



Tokyo Station
東京ステーション



Osaka Station
大阪ステーション



| | | | |
|---------|----------------------------------|----------|---|
| [社名] | イシグロ株式会社 | [主要取引銀行] | 三菱UFJ銀行 八重洲通支店 みずほ銀行 丸の内支店 三井住友銀行 東京中央支店 商工組合中央 金庫東京支店 三井住友信託銀行 本店営業部 |
| [本社] | 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番8号 | | |
| [業種] | 各種バルブ及び総合配管機材商社 | | |
| [創業] | 昭和14年2月 | [グループ会社] | 五光山彦(株) 新興金属(株) サンエス管材(株) 新町管材(株) 第一鋼管(株) (株)三州機工商会 山形新興機材(株) (株)MIE インターナショナル 星川高科貿易(上海)有限公司 PT. ISHIGURO INDONESIA ISHIGURO MYANMAR CO., LTD. |
| [資本金] | 1億円 | | |
| [従業員] | 800名(グループ会社社員数:1044名) | | |
| [年間売上高] | 539億円(平成30年4月期)(連結売上高637億2270万円) | | |

[役員]



代表取締役社長
石黒 克司
Katsuji Ishiguro



執行役員
佐藤 和彦
Kazuhiko Sato
物流本部長



取締役
石原 徹
Toru Ishihara
西日本営業本部長



取締役
松倉 義人
Yoshihito Matsukura
首都圏営業本部長



取締役
長谷川 勝美
Katsumi Hasegawa
東日本営業本部長



専務取締役
石黒 剛司
Koji Ishiguro
商品本部長



非常勤監査役
多田野 裕司
Yuji Tatano



常勤監査役
山路 敏文
Toshifumi Yamaji



執行役員
大田 英治
Hideharu Ohta
管理本部長



執行役員
和久井 智
Satoshi Wakui
経営企画室長



執行役員
清水 智
Satoshi Shimizu
営業推進本部長

ISHIGURO POWER

イシグロを支える社員たち

「人」こそ、イシグロ最大の商品であり、宝。
結集し団結することで生まれるイシグロパワーで、次なる100年の節目へ。
「お客さま第一」の心を忘れず、さらなる邁進をつづけてまいります。



進化論を唱えたダーウィンの言葉に、「最も強い者ではなく、変化に対応できた者が生き残る」というものがあります。おかげさまで弊社はこれまで順調に業績を伸ばしてきましたが、過去にあったように今後ピンチに立たされることもあることでしょう。窮地をも乗り越えて未来への発展をはかるため、目指しているのは時代や経済の潮流、お客さまや仕入れ先の動きを丹念に見てヒントをつかむ、きめ細かな経営です。そして常に堅実に、しかしチャンスには大胆な行動が取れる体制を固めることが大切だと考えています。

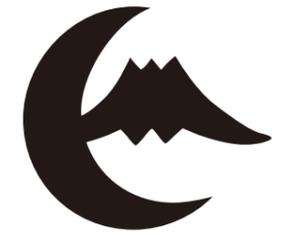
2012年より、新たに海外事業への対応が私の業務に加われました。元々2000年頃から社長とは海外進出の必要性を話しあっていました。しかし、まずは会社の立て直しと成長のために国内投資を優先し、海外現地法人を統括するためにMIEインターナショナルをグループ化したのが10年以上を経た2012年。以後貿易障壁が大きく、だからこそ商社としての存在価値を確立できるインドネシアやミャンマーなどに現地法人を設立しています。

そして今年からは、ベトナム人、ミャンマー人の採用をスタート。グローバル企業への挑戦を、堅実かつ大胆に進めていきたいと考えています。東京八丁堀に端を発する「イシグロパワー」の存在感を、80周年を越え国内のみならず海外へ、ますます高めていきます。

専務取締役
石黒剛司
Koji Ishiguro

ISHIGURO LOGO MARKS

イシグロのロゴマークの変遷



石黒バルブ株式会社

1939-1993

1993年まで使用。コーポレートマークの月と富士山をモチーフにしたシルエットは、創業当時に製造していた「月富士バルブ」をイメージしています。

ISHIGURO



イシグロ株式会社

1993-2012

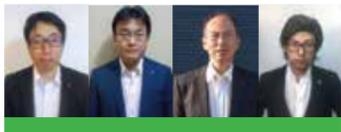
この英文ロゴタイプに使われているコーポレートカラーは、若々しく生き生きとした活力をイシグログリーン、信頼性と知性をイシグロブルーが表現しています。下は、旧社名のイニシャル「I.V.」をモチーフにしたコーポレートマークと和文ロゴタイプ。

ISHIGURO

イシグロ株式会社

2012-

2012年に向けリニューアルした英文ロゴタイプ(上)。『質の高さ』『信頼感』『スピード感』を想起させるため全体のフォルムに抑揚をつけ、頭文字の「I」「G」にグリーンのアクセントを入れることで『自然との調和』を表現。カラーは信頼のブルーをベースにビビッドなグリーンで『若々しさ』を表現しました。下の和文ロゴタイプも同時に変更し、軽やかな印象に。



本社勤務のイングロ株式会社社員

ISHIGURO POWER

首都圏第一ブロック



埼玉営業所



大宮営業所



神奈川支店



横浜支店



習志野営業所



神奈川物流センター

北海道ブロック



札幌一課



札幌二課



北海道物流センター



釧路営業所



東北物流センター

東北ブロック



仙台二課

仙台一課



盛岡営業所

青森営業所

東北ブロック



秋田営業所

三陸営業所



郡山支店



山形営業所

関信越ブロック



長野営業所



つくば営業所



宇都宮営業所



群馬支店



新潟支店

関東ブロック



いわき営業所



川崎営業所



鹿島営業所



加工センター



千葉営業所

ISHIGURO

OWER



北九州営業所



大阪インサイドセールス課



大阪インサイドセールス課

関西第三ブロック



関西第三ブロック一課



福岡支店



関西第三ブロック三課



関西第三ブロック二課



関西第一ブロック一課



広島支店



関西管理 債権管理



岡山営業所



中部ブロック

名古屋一課



名古屋二課



名古屋三課



中部物流センター



富士営業所



島田営業所

九州ブロック



大分営業所



沖縄出張所

長崎出張所



京滋営業所

東京ステーション



東京ステーション



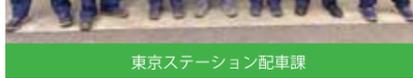
東京ステーション配送課



東京ステーション入荷課



東京ステーション発送課



東京ステーション配車課



東京ステーション物流推進課

大阪ステーション



大阪ステーション

関西第二ブロック



関西第二ブロック二課



関西第二ブロック一課



四国営業所



広島営業所

ISHIGURO POWER



北陸一課・二課



島田営業所

NETWORK

イシグログループのネットワーク

イシグログループ全拠点

- 国内.....39 拠点
- グループ会社.....17 拠点
- 海外.....4 拠点

合計.....60 拠点

※平成 30 年 8 月現在



名古屋

■中部ブロック

- 名古屋一課(流通・プラント) / 二課 / 三課(設備)
- 中部物流センター ●北陸一課 / 二課
- 富士営業所 ●島田営業所
- 五光山彦株式会社 / 津営業所 / 岐阜支店一宮営業所 / 大垣営業所



札幌

■北海道ブロック

- 札幌一課(流通) / 二課(設備)
- 北海道物流センター
- 釧路営業所



宇都宮

■関信越ブロック

- 新潟支店 ●長野営業所
- 群馬支店 ●宇都宮営業所
- つくば営業所

■東北ブロック

- 仙台一課(流通) / 二課(設備)
- 東北物流センター ●青森営業所
- 三陸営業所 ●盛岡営業所
- 秋田営業所 ●山形営業所
- 郡山支店
- 新興金属株式会社東北支店



仙台

■関東ブロック

- 川崎営業所 ●千葉営業所
- いわき営業所 ●鹿島営業所



千葉

■本社・首都圏ブロック

- 本社(管理本部・商品本部)
- 東京ステーション
- ラボラトリー
- 首都圏第一ブロック
 - 一課(流通) □二課(流通)
 - 埼玉営業所 □神奈川支店
 - 大宮営業所
- 首都圏第二ブロック
 - 一課 / 二課(プラント)
- 首都圏第三ブロック
 - 一課 / 二課(設備)
 - 横浜支店 □習志野営業所
- 首都圏第四ブロック
 - 一課 / 二課 / 三課(設備)
- 神奈川物流センター
- 加工センター
- 新興金属株式会社
- 千葉配送センター



本社



東京ステーション

■九州ブロック

- 福岡支店 ●北九州営業所
- 長崎出張所 ●大分営業所
- 沖縄出張所
- 株三州機工商会本社
- 南営業所 / 宮崎営業所
- 新町管材株式会社福岡営業所
- 第一鋼管株式会社



福岡

■関西ブロック

- 関西第一ブロック
 - 一課(流通)
 - 広島支店
 - 岡山営業所
- 関西第二ブロック
 - 一課 / 二課
 - 広島営業所 □四国営業所
- 関西第三ブロック
 - 一課 / 二課 / 三課(設備)
 - 京滋営業所
- 大阪ステーション
- サンエス管材株式会社
- 新町管材株式会社



大阪



大阪ステーション

- =イシグロ株式会社
- =イシグロ拠点
- =グループ会社拠点



グループ会社

- 五光山彦 株式会社
- 新興金属 株式会社
- サンエス管材 株式会社
- 新町管材 株式会社
- 株三州機工商会
- 第一鋼管 株式会社
- 株MIEインターナショナル
- 星川高利貿易(上海)有限公司
- PT. ISHIGURO INDONESIA
- Ishiguro Myanmar Co., Ltd.

ISHIGURO

イシグログループは、管材業界のトップランナーとなるべくネットワークを構築し、
全社員の創意と工夫そして英知を結集してより高い目標に挑戦し、
常に「お客様第一」の気持ちを忘れずに努力を重ねてまいります。

GROUP POWER

株式会社MIEインターナショナル／星川高科貿易(上海)有限公司

PT.ISHIGURO INDONESIA / ISHIGURO MYANMAR CO., LTD 34

サンエス管材株式会社 36 新興金属株式会社 37 五光山彦株式会社 38

新町管材株式会社 40 山形新興機材株式会社 40

株式会社三州機工商会 41 第一鋼管株式会社 41

社是

一常に信用を重んじ
感謝の心と奉仕の
精神で全力を尽します
二常に創意工夫を心掛け
広い視野と合理的思考
を以て高い理想を追求
します
三常に謙虚さを忘れず
質実剛健を旨とし社業
に邁進します
四常に人間性を尊重し
豊かな生活の創造に
努めます

産業と暮らしを繋ぐ、支える。

[企業理念と社是]

「社是」は、創業者である石黒孔司初代社長が折に触れて語っていた「経済がどう変化しようと競争がどんなに激しくなろうと、『あの会社は信用のおける会社だ』と皆から言われるようになれば、商売は伸びていく」という言葉を土台として、三代目雅昭社長が制定したもの。現社長石黒克司いわく、「信用第一に加え、他に追随するのではなく一番に切り拓いていくパイオニア精神、さらに現在業績は好調ですが、そういう時こそ謙虚さを忘れずという戒め。最後の豊かな生活の創建については、社業を通じて社会インフラに貢献すると共に、社員のみならず豊かにすることが経営者としての仕事だと思っています」。イシグロでは社是を企業理念として、すべての拠点すべての部屋に掲げ、中期計画や単年度計画の基本としている。



世界一へ伸び行くグレーター・ジャカルタの拠点
PT.ISHIGURO INDONESIA



【アクセス】
 Jl. Kenari Raya Blok G2 No.11 A, Delta Silicon
 5, Lippo Cikarang, Bekasi, Jawa Barat,
 Indonesia
【会社概要】
 [設立] 2013年10月
 [資本金] 61,800,000円

【プカシ (Bekasi) 市について】

PT.ISHIGURO INDONESIAのあるプカシ市は、インドネシアの首都・ジャカルタの東に隣接する市で、プカシ県の県庁所在地。インドネシア最大の都市でもあるジャカルタのベッドタウンとして機能してきたが、近年著しく人口を増大させ、産業も急速な発展を遂げており、日系企業の進出も加速している。

成長に従って都市開発が進み、高層ビルが続々と建設されるなか、急務となっているのが、鉄道や道路網、電力や上下水道処理施設などインフラの整備。病院や学校といった公共施設、商業施設、郊外地への工場建設なども盛んで、現在はもちろん将来的にも非常に旺盛な需要が期待される。



プカシ市は首都ジャカルタと隣接する大都市



ジャカルタ名物のオート三輪「バジャイ」



アジアを中心に海外事業を展開する八丁堀に構える総本部
MIEインターナショナル



【アクセス】
 〒104-0032
 東京都中央区八丁堀4-5-8
 TEL : 03-5540-4031
 FAX : 03-3553-3925

【会社概要】

[設立] 2008年4月
 [資本金] 70,000,000円

【バンコク連絡事務所】

Room603,Two Three Mansion, 100 Soi 23
 Sukhumvit Rd Klongton-Nua,Wattana,
 Bangkok 10110,Thailand

【歴史】

2008年◎ステンレス管継手メーカーとして高い実績と歴史を誇る三重県桑名市のMIEグループの一員として、中国・東南アジアへの進出企業、ならびに現地企業へ販売をすすめるべく設立される

2012年◎MIEインターナショナルの株式90%をイシグロ株式会社が取得。MIEグループとのシナジー効果で中国・東南アジアでの販売拡大を目指す

MIEインターナショナルは、管継手メーカーとして長い歴史とすぐれた品質を誇るMIEグループ(愛知県桑名市)の一員として、中国や東南アジアへの販売を拡大するために2008年に設立された。2012年にはイシグロ株式会社が株式を買収し、その傘下に入った。実績ある管継手メーカー MIEグループと総合配管資材の商社であるイシグロ両社のシナジー効果をはかりつつ、成長著しい中国、タイ・インドネシアを中心とした東南アジアの海外営業事業展開・発展を目的として事業をすすめている。



代表取締役社長
 石黒剛司

ミャンマーの経済発展の可能性に挑む
ISHIGURO MYANMAR CO.,LTD.



【アクセス】
 No.-152/153/235/236 Mya Nandar Street, Sat
 Hmu Lat Mhu Quarter Thakata Township
 Yangon, Myanmar
 TEL : (95)9-4028-20017
【会社概要】
 [設立] 2017年5月
 [資本金] 150,000ドル

【ヤンゴンについて】

ISHIGURO MYANMARがあるヤンゴン(Yangon)市は、ミャンマーの旧首都。庭園都市と讃えられたイギリスの植民地時代から1980年代までラングーンと呼ばれ、1989年に旧名ヤンゴンに復帰している。2006年、首都はネピドーに移されたが、今もミャンマー経済の中心であることに変わりはない。

経済の中心であり、空路、陸路、鉄道における国内および国際ハブとなっているヤンゴンは、人口の流入が続き、今後のミャンマーの経済発展の鍵を握る存在。未だ追いついていないインフラ整備はもちろん、都市建設や海外企業による工場建設など活発な開発の進展が期待されている。



発展するヤンゴン中心部



ヤンゴンのシュエダゴン・パゴダ



中国市場を切り拓く橋頭堡
星川高科貿易(上海)有限公司



上海の夜景



「水郷の町」七宝老街

【アクセス】
 〒200336
 上海市延安西路2299号世貿商城10C24室
 TEL : (86) 21-6236-0668
 FAX : (86) 21-6236-0286
【会社概要】
 [設立] 2007年1月
 [資本金] 20,000,000円



【上海という都市について】

星川高科貿易(上海)有限公司がある上海は、中華人民共和国最大の都市の一つで、商工業や金融の中心地。世界で十指に入る大都市として知られる。

1949年の中華人民共和国成立によって外国資本はいったん香港へ移ったが、78年の改革開放政策によって再び外国資本が流入し、めざましい発展を遂げた。2016年上海市の常住人口は2419万人、域内のGDPは2兆7466億円で北京や香港を上回っている。

ステンレスと高級合金の取扱いに長ける専門商社 新興金属株式会社



東京都中央区

ステンレス配管資材やステンレス鋼材、その加工を取り扱うステンレス材料専門商社として、60年の歴史を持つ。鋼管、鋼板、条鋼、継手の各扱量2〜3割というバランスの取れた構成で、プラントメーカーや食品・製紙メーカー向けに強みを発揮してきた。2012年にグループの一員となり、イシグロの商材と合わせた総合的な提案を可能にし、顧客に幅広いメリットを感じていただける体制を固めている。

【アクセス】

〒104-0032
東京都中央区八丁堀 4-5-8
KDX八丁堀ビル
TEL：03-5543-2280（営業部）
03-5543-2281（管理部）
FAX：03-5543-2290（共通）

【会社概要】

【設立】1957年2月
【資本金】90,000,000円
【本社所在地】
〒104-0032
東京都中央区八丁堀 4-5-8
【東北支店】
〒989-2421
宮城県岩沼市下野郷字新南長沼 22-5
【千葉配送センター】
〒267-0056
千葉県千葉市緑区大野台 2-6-7
土気緑の森工業団地敷地内



本社



東北支店



千葉配送センター



代表取締役
小林 敏治



取締役 東北支店長
鳴瀬 充

【歴史】

1957年◎ステンレス鋼及び高級合金鋼に関する材料、並びに加工品全般の取扱いを目的とし、日本金属工業株式会社代理店として発足。営業所を芝中門前に置く
1958年◎業務拡充に伴い千代田区神田に移転
1959年◎ステンレス鋳鋼販売部門設置
1961年◎ステンレスパイプ販売部門設置
1962年◎三菱商事株式会社特約店となる
1967年◎資本金 600万円に増額
1969年◎本社事務所を中央区日本橋に移転
1971年◎資本金 1,200万円に増額。
◎仙台営業所新設
1975年◎資本金 1,800万円に増額
1979年◎業務拡充に伴い仙台営業所並びに倉庫を移転
1983年◎業務拡充に伴い本社事務所を中央区日本橋茅場町に移転
1984年◎商品在庫拡充に伴い配送センターを市川に移転
1988年◎千葉営業所新設
1989年◎厚木営業所新設、全営業所オンライン稼働
1990年◎日本金属工業株式会社とネットワーク通信開始。業務及び商品在庫拡充に伴い仙台営業所を現地に移転新設し、東北支店とする
1991年◎溶接、製缶、プレハブ加工開始
2008年◎千葉配送センター新設
2010年◎本社事務所を現地に移転、資本金 11,800万円に増額
2012年◎資本金 9,000万円に減資
◎イシグロ株式会社のグループ会社となる



【新興金属のある東京都中央区】

東京都中央区
【面積】10.115km²
【世帯数】89,132世帯
【人口】146,823人
(男性74,636人／女性82,187人)
【区の花】つつじ



【区の木】やなぎ



区制40周年を記念して、区のシンボルにふさわしい「区の木」・「区の花」を1986年5月15日から7月15日まで公募し、選定委員会（住民代表等で構成）において応募結果を参考に選定、1988年3月15日告示により制定された。



大阪府茨木市



【サンエス管材のある茨木市】

大阪府茨木市
【面積】76.49km²
【世帯数】124,431世帯
【人口】281,810人
(男性136,712人／女性145,098人)
【市の花】バラ



「バラ」は、茨木の地名「いばら」にもつながり、その美しい花は、色彩豊かで、香り良く、優雅な姿は、品性を備え、広く市民の間で愛されている。

【市の木】カシ



「カシ」は、古来から野生木として市内にも生育し、非常に堅固な性状をもつ常緑樹で、庭木、生垣などとして、広く市民に親しまれている。また、往年の茨木城主中川家の家紋「抱きかしの」とのかわりも深く、その芯の強いたくましさ、茨木市の象徴としてふさわしいと選ばれた。

顧客の要望に手厚く応える3つの“S” サンエス管材株式会社



取締役社長
堤 正継



代表取締役
石原 徹



取締役会長
堤 邦男



取締役
浅利 政史

【アクセス】

〒567-0865
大阪府茨木市横江 1-14-18
TEL：072-635-9991
FAX：072-632-9528

【会社概要】

【設立】2017年4月
【資本金】10,000,000円
【本社所在地】
〒567-0865
大阪府茨木市横江 1-14-18

【社名の由来】

SERVICE——顧客満足度の追求。
SPEED——充実した物流体制。
SAFETY——安心・安全。
以上3つの企業行動指針が冠する「3つのS」で、「サンエス」。創業者であり現会長の堤邦男による発案。

1974年に大阪府茨木市で創業した、配管卸売の専門商社。近畿地方を営業基盤とした大手サブコン向けや協力会社向けの販売、および各高速道路へのアクセスが良好な地域性を活用した幅広いエリアへの迅速な配送を強みとしている。取扱商品は多岐に渡り、地域冷暖房設備・オフィスビル・学校・工場・商業施設・宿泊施設から一般住宅まで、ありとあらゆる建築現場に配管機材を販売。2017年よりイシグログループの一員となる。



サンエス管財を担う社員





中部地方のファーストコールカンパニーを目指す 五光山彦株式会社

【五光山彦のある四日市市】

出典：四日市市ホームページ
三重県四日市市
[面積] 206.44km²
[世帯数] 137,848世帯
[人口] 312,255人
(男性 156,134人 / 女性 156,121人)
*2018年5月末現在

【市の花】サルビア



【市の木】くすのき



1972年3月、市民に対してアンケートを実施した上で選定

三重県北部にある四日市は、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖で実り豊かな地で、古くから人々が住み、市内各所に古墳が残されている。交通の要衝でもあったことから周辺の物産を集める市が開かれ、15世紀半ばの記録に「四日市庭浦」の記述があり、これが地名の由来となった。

江戸時代から明治にかけて政治と商業の中心として栄え、以後繊維や機械工業も盛んになり、日本の工業化の歩みとともに発展。昭和30年代から始まる石油化学工場の進出が、一時期大気汚染など深刻な公害をもたらしたが、環境浄化への努力が実って今は解消している。現在、郊外地には茶畑や森など豊かな緑が広がって良好な環境を保っている。

平成の町村合併により、現在では県庁所在地の津市を上回る人口を擁し、名古屋へ通勤通学する人たちが多く一方で、桑名や鈴鹿、亀山、三重郡の各町から通勤通学してくる人口も多く、活気と活力に溢れている。



桑名の花火大会



四日市コンビナート



本社 産機営業部



本社 仕入課・管理課



本社 住設営業部



本社 商品管理課



一宮営業所



津営業所



岐阜支店仕入課



岐阜支店商品管理課



岐阜支店管理課



岐阜支店営業部



岐阜支店業務課

【歴史】

1946年◎五光商会、四日市市で創業
1948年◎山彦の前身である山田彦商店創業、当初は機械工具類を扱う
1954年◎山田彦商店がこの頃から鉄管継手を扱い、配管資材専門の方向へ進む
1958年◎山田彦商店、会社組織化
1968年◎五光商会、四日市の現地に本社を移転。山田彦商店、山彦鋼管に社名を変更
1969年◎大垣市で中部機材創業
1971年◎中部機材、会社組織化
1974年◎五光商会、鋼管倉庫を新設
1976年◎中部機材、新社屋完成、移転
1997年◎山彦鋼管、一宮出張所を開設
1998年◎山彦鋼管、山彦へ社名変更
2013年◎五光商会、イシグロ株式会社のグループ会社となる
2015年◎中部機材、五光商会の100%子会社となる
2017年◎山彦、イシグロのグループ会社に
2018年◎3月に五光商会が山彦を吸収合併、4月にはさらに中部機材と吸収合併して3社の経営を統合



専務取締役
竹原健一



代表取締役社長
神 隆



常務取締役
若林浩二



常務取締役
吉田 正弘



取締役
山田 進路



取締役
後藤 茂

【アクセス】

〒510-0057
三重県四日市市昌栄町4-5
TEL：059-353-2181 FAX：059-351-1780

【会社概要】

[設立] 1947年4月
[資本金] 20,000,000円
[本社所在地]
〒510-0057
三重県四日市市昌栄町4-5
[津営業所]
〒514-0817
三重県津市高茶屋小森町2892-31
[岐阜支店]
〒500-8621
岐阜県岐阜市須賀3-14-1
[一宮営業所]
〒491-0878
愛知県一宮市水附町43-1
[大垣営業所]
〒503-0022
岐阜県大垣市中野町5-145



四日市に本拠を置いて三重県内に配管資材を供給する五光商会株式会社、岐阜県を中心に信頼と実績を積み重ねてきた山彦株式会社、そして岐阜県大垣市を拠点に地歩を築いてきた中部機材株式会社。地域に密着して発展してきた3社は2018年春に経営統合し、五光山彦株式会社として新たな歩みを刻み始めた。

目指しているのは、共通事業である配管資材の販売を中心に、中京エリアで一番初めに声のかかるファーストコールカンパニー。配管資材を介して暮らしを支え、地域に貢献できる企業として3社の力を結集して期待に応えていく。



鹿児島・宮崎エリアでクイックレスポンス 株式会社三州機工商会



1943年の創業以来、鹿児島県と宮崎県の水道や空調、断熱や保温工事の施工会社を顧客として、管工機材・空調資材・断熱保温資材を販売。幅広い在庫を取り揃えて即納体制を確立し、すべてが揃う体制と両県ナンバーワンのクイックレスポンスで信頼を得ている。この2018年3月よりイシグロ株式会社のグループ会社となったことで、さらなる発展と顧客へのよりいっそうの価値の提供を目指し、その期待に添えるよう、社員一丸となって業務に取り組んでいく。

【アクセス】

[本社]
〒892-0836 鹿児島県鹿児島市錦江町7-2
TEL: 099-222-7333 FAX: 099-226-6555

【会社概要】

[設立] 1959年9月
[資本金] 12,000,000円
[南営業所]
〒890-0072 鹿児島県鹿児島市新栄町25-23
[宮崎営業所]
〒880-0912
宮崎県宮崎市大字赤江飛江田978-3



代表取締役社長 三木 英雄 会長 宮内 克樹
顧問 宮内 二郎 顧問 宮内 昭彦



本社

【三州機工商会がある鹿児島県鹿児島市】

[面積] 547.58km²
[世帯数] 273,480世帯
[人口] 597,932人
[市の花] きょうちくとう [市の木] くすのき



(上) 宮崎営業所 (下) 南営業所

積水化学製配管機材を強みに長崎県北部をカバー 第一鋼管株式会社



設立から60年の歴史がある、配管資材・建設資材の販売会社。積水化学の製品の販売、および営業基盤とする長崎県北部の地場給排水整備会社向けの販売に強みを持ち、米軍や自衛隊への納入実績をもつ。また、長崎県南部の諫早市にオープンするイシグロ・長崎出張所とともに、相互のシナジー効果により長崎の営業拡大をはかっていく。

【アクセス】

[本社]
〒857-0878 長崎県佐世保市山県町6-7
TEL: 0956-22-4321 FAX: 0956-25-1514

【会社概要】

[設立] 1958年5月
[資本金] 10,000,000円



代表取締役 石原 徹 取締役 営業部長 福島 誠司

【第一鋼管がある長崎県佐世保市】

[面積] 426.06km² [世帯数] 105,693世帯
[人口] 250,292人
(男性 118,478人 / 女性 131,814人)
*2018年6月1日現在
[市の花] カノコユリ [市の木] ハナミズキ

佐世保市は、長崎市に次ぐ人口と経済規模をもつ、県北部の中心都市。明治初期までは人口4000人ほどの半農半漁の小さな村だったが、明治35年、旧海軍の鎮守府(基地)が置かれて呉や横須賀と並ぶ四軍港の一つになってから急速に発展、村から一挙に市に昇格している。



本社



【アクセス】

[本社]
〒541-0043
大阪府大阪市中央区高麗橋3-4-10
淀屋橋センタービル5階
TEL: 06-6599-8400 FAX: 06-6599-8940

【会社概要】

[設立] 1958年2月
[資本金] 90,000,000円

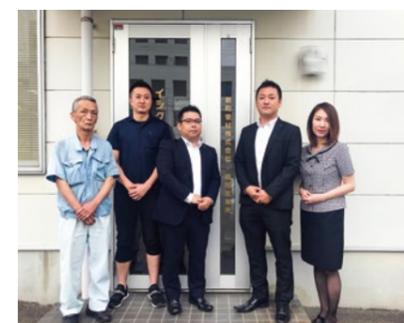
【新町管材のある大阪市中央区】

[面積] 8.87km² [世帯数] 62,486世帯
[人口] 97,710人(男性45,486人 / 女性52,224人)
*2018年7月1日現在
[区の花] パンジー・梅

日本最初の都市といわれる難波宮に始まり、近世には大阪城が築かれた長い歴史を持つ地域に、平成元年、旧東区と旧南区が合併して中央区が誕生。由緒ある神社や旧蹟も多く、大阪取引所を中心とした北浜や古くからの商業中心地船場、にぎわいの地道頓堀や心斎橋を擁し、大阪の顔ともいえる中心地区である。



本社



福岡営業所

吉年製鉄管継手の西日本総代理店 新町管材株式会社

1958年創業、60年の業績を誇る管継手の専門商社。享保以来の歴史をもつ鑄鉄を中心とした管継手・産業部品メーカー、吉年の製品を扱う西日本総代理店として、長年にわたって関西を中心に中京から九州地区にかけて幅広く営業を展開している。

2018年2月よりイシグロのグループ会社となり、サンエス管材(株)とともにイシグロの西日本における営業基盤拡大の一翼を担う。シナジー効果によりお客さまへの供給体制やサービスのよりいっそうの向上を図るとともに、グループおよび自社のさらなる成長を目指している。



代表取締役社長 石原 徹 取締役 真子 寿之

東北を中心に配管設備の設計・施工 山形新興機材株式会社



本社

山形新興機材のある東村山郡中山町

[面積] 31.15km² [世帯数] 3,427世帯
[人口] 11,363人(男性5,494人 / 女性5,869人)
*2017年10月1日現在
[町の花] ひまわり

中山町は、山形県の市町村のなかで面積的にはいちばん小さいが、県のほぼ中央、町のホームページによれば「へそ」の位置にある。かつては最上川の水運で栄え、現在では県中央という位置と山形市に隣接することから山形市を中心とした近隣地区のベッドタウン的な性格を強めている。

【アクセス】

[本社]
〒990-0406
山形県東村山郡中山町大字柳沢219-2
TEL: 023-674-8571

【会社概要】

[設立] 2014年12月
[資本金] 10,000,000円
[製造工場]
〒990-0071
山形県山形市流通センター3-11-4
(イシグロ株式会社 東北ブロック山形内)

本拠があるのは県中央部の山形市、天童市、寒河江市と隣接する東村山郡中山町。空調やコージェネレーションシステムの配管設備設計・施工、ガス・石油・農業用水や環境設備・上下水道設備施設の配管設備の工事や部品・機材製作を手がけ、2014年に会社設立。行政による開発事業や学校、病院など東北を中心に首都圏も含めて多彩なニーズに応えてきた。



代表取締役社長 近藤 博之 専務取締役 鎌田 雅和

MEMORIES

人を育て、人に生かされてきた80年

2018年の夏が本格的に始まるうとしていた7月上旬。
イシグロを初代社長から知る野本業務監査室室長をはじめ、
4人のイシグロマンに集まっていた頂き、座談会を開催。
彼らの知るイシグロの苦楽の“思い出”を存分に語っていただいた。
これからの10年、さらにその先のイシグロをお取引先の皆様と共に
つくっていく未来へ向けての提言を得るために。
そして、イシグロ株式会社だからこそ持ち得た独自の
アイデンティティを、次世代へとつなげてゆくために。



80周年記念座談会出席者
(写真左より)

松倉 義人

昭和43年(1968)年生まれ 平成5(1993)年入社
イシグロ株式会社 取締役 首都圏営業本部長

鈴木 英作

昭和33(1958)年生まれ 昭和52(1977)年入社
イシグロ株式会社 商品本部 仕入部長 兼 海外事業室長

野本 稔

昭和26(1951)年生まれ 昭和45(1970)年入社
イシグロ株式会社 業務監査室長

小林 敏治

昭和34(1959)年生まれ 昭和57(1982)年入社
新興金属株式会社 代表取締役

イシグロ株式会社 定款

第1章 総則

- 第1条 当社は、イシグロ株式会社と称する。
- 第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。
1. パルプ、コック、手動ポンプ其の他各種配管器材の製作並びに仕入販売
 2. 蒸気汽缶暖房給水衛生工事及び其の他の設計並びに施工
 3. セメント、砂利、砂等各種建築用資材の仕入並びに販売
 4. 不動産の賃貸
 5. 損害保険代理店業務
 6. 労働者派遣事業
 7. 第一種貨物利用運送事業
 8. 前各号に附帯する一切の業務
- 第3条 当社は、本店を東京都中央区に設置する。但し、必要に応じ支店または出張所等を設置することができる。
- 第4条 当社の公告は、官報に掲載する。

第2章 株式

- 第5条 当社の発行可能株式総数は、1,000万株とする。
- 第6条 当社の単元株式数は、1,000株とする。
- 第7条 当社は株式に係る株券を発行しない。
- 第8条 1) 当社の株式の譲渡または取得については、株主または取得者は取締役会の承認を要する。
2) 当社は相続その他の一般承継により当社の株式を取得したものに對し、当該株式を当社に売渡すことを請求することができる。
3) 当社は株主総会の決議によって特定の株主からその有する株式の全部または一部を取得することができる。前項の場合、当該特定の株主以外の株主は、自己を売主に追加することを請求することができない。
4) 当社は、当社の株式(自己株式の処分による株式を含む)および新株予約権を引き受ける者の募集をする場合において、その募集事項、株主に当該株式または新株予約権の割当てを受ける権利を与える旨およびその申込み期日の決定は取締役会の決議によって定める。
- 第9条 当社の株式取得者が株主名簿記載事項を株主名簿に記載することを請求するには、株式取得者とその取得した株式の株主として株主名簿に記載された者又はその相続人その他の一般承継人が当社所定の書式による請求書に記名押印し共同して請求しなければならない。ただし法令に別段の定めがある場合には株式取得者が単独で請求することができる。
- 第10条 当社の株式につき質権の登録又は信託財産の表示を請求するには、当社所定の書式による請求書に当事者が記名押印し、共同して請求しなければならない。その登録又は表示の抹消についても同様とする。
- 第11条 株主、登録株式質権者またはその法定代理人は、その住所、氏名及び印鑑を届け出なければならない。変更

の場合もまた同じである。

- 第12条 日本国内に居住せざる株主、登録株式質権者及びその法定代理人は、日本国内に居住を有する代理人を定め、当会社へ届け出なければならない。
- 第13条 第9条及び第10条に定める請求をする場合には当社所定の手数料を支払わなければならない。
- 第14条 1) 当社は毎事業年度末日の最終の株主名簿に記載された議決権を有する株主をもって、その事業年度に関する株主総会において権利を行使することができる株主とする。
2) 前項のほか必要がある時は取締役会の決議によって基準日を定めることができる。ただし当該基準日の2週間前までに当該基準日及び基準日株主が行することができる権利の内容を定めた事項を公告しなければならない。

第3章 株主総会

- 第15条 定時株主総会は、事業年度末日の翌日から3カ月以内に招集し、臨時株主総会は、必要がある場合に随時これを招集する。定時ならびに臨時株主総会の招集は開催の1週間前に議題を併せて通知を発する事を要する。
- 第16条 当社の株主総会は、東京都に於いて開催する。総会の日時及び会議の目的たる事項は、取締役会の決議によりこれを定める。株主総会の議長は、代表取締役社長これに任ず。代表取締役社長事故あるときはあらかじめ取締役会において定めた順序により他の取締役これに代る。
- 第17条 総会の決議に法令または定款に別段の定めある場合を除く外、出席した議決権を行使することが出来る株主の議決権の過半数を以てこれをなすものとする。
- 第18条 株主またはその法定代理人は、他の者に委任して議決権を行使する事ができる。
- 第19条 株主総会の議事は、その要領及び決議を議事録に記載し、議長並びに出席した取締役記名捺印の上会社に保存する。

第4章 取締役、監査役、取締役会及び会計監査人

- 第20条 1) 当社は、取締役会を置く。
2) 当社は、3名以上の取締役及び2名以内の監査役を置く。
3) 当社は、会計監査人を置く。
- 第21条 取締役、監査役及び会計監査人は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数の決議によって選任する。
- 第22条 当社の取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする。
- 第23条 1) 取締役の任期は就任後1年内の最終の決算期に関する定時株主総会終結までとする。
2) 監査役の任期は就任後4年内の最終の決算期に関する定時株主総会終結までとする。

- 3) 補欠または増員で選任した取締役の任期は、現任取締役の任期の満了すべき時までとする。
- 4) 任期満了前に退任した監査役の補欠として選任された監査役の任期は、退任した監査役の任期の満了すべき時までとする。
- 5) 会計監査人の任期は就任後1年内の最終の決算期に関する定時株主総会終結までとする。会計監査人は同定時株主総会において別段の決議がなされなかった時は、再任されたものとみなす。

- 第24条 会社を代表すべき取締役は、取締役会の決議を以て選定する。当社の代表取締役は5名以内とし、当社の常務以上とする。
- 第25条 代表取締役は、取締役会の決議に従い会社を代表して業務を執行し、会社を統括する。また他の常務以上の取締役は代表取締役を補佐し、代表取締役に事故あるときは之に代理する。
- 第26条 取締役会を分つて定時取締役会、臨時取締役会とする。定時取締役会は本店に於いて3カ月に1回以上、臨時取締役会は必要に応じこれを招集する。臨時取締役会の招集は、3日前に議題を併せて通知を発する事を要する。但し取締役全員が同意の時は通知を用いずして招集することができる。
- 第27条 取締役会は、代表取締役社長これを招集しその議長となる。但し各取締役は議題及び理由を附して、議長に對しその招集を請求することができる。
- 第28条 1) 取締役会の決議は、取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数を以てこれを決する。
2) 当社は取締役の全員が取締役会の決議事項について書面または電磁的記録により同意したときは、当該決議事項を可決する旨の取締役会の決議があったものとみなす。但し、監査役が異議を述べた場合はこの限りでない。
- 第29条 取締役会の議事要領は議事録に記載し、出席した取締役および監査役が記名捺印する。
- 第30条 取締役及び監査役の報酬は、株主総会の決議を以てこれを定める。

第5章 会計

- 第31条 当社の事業年度は1年とし、毎年4月21日に始まり翌年4月20日に終わる。
- 第32条 1) 毎決算期の剰余金の配当は、当該期末現在の株主名簿記載の株主または登録株式質権者に支払うものとする。
2) 当社は、取締役会の決議によって毎年10月20日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当金)をすることができる。
- 第33条 前条の配当金は、その支払い確定の日から満3年を経過したときは、当社はその支払いの義務を免れるものとする。
- 第34条 本定款に規定なき事項は、凡て法令規定に準拠するものとする。

平成28年7月1日改訂

MEMORIES

人を育て、人に生かされてきた80年

それぞれの入社事情 イシグロとの出会いと時代

鈴木 私が入社したのは昭和52（1977）年です。前年の51年は日本が戦後初めてマイナス成長になり、当社にとっても主力メーカーだった東洋バルブが倒産するという大事件があった年。その翌年の入社で「大丈夫なんだろうか」という不安を抱えてのスタートでした。でも、会社の雰囲気はそんなことを感じさせない活気がありましたね。

小林 私は昭和57年入社ですから、だいぶ状況は違いますね。当時すでに私と同じ大学出身の社員はいましたが、就職課を通じて入社したのはうちの大学で私が最初。まだ会社の規模は小さいながら、絶対大きくなるだろうと可能性を感じて入りました。

野本 私は昭和45（1970）年、初代社長の時代です。

鈴木 4代の社長に任えてきたわけですね。

野本 そうです。もう私より古い人はいません（笑）。当時、社の幹部だった野中さんが私の高校の先生と友人で、北海道から上京して働きながら大学に通おうというときに紹介されて入りました。4時まで働いて夜に学校へ行くという条件でしたが、ちゃんと正社員扱いでした。専攻は建築でしたが結局他へは就職せず、そのまま今に至っています。

小林 その頃から場所はここ八丁堀ですか。

野本 本社は入船ですね。ここには管理部があって、僕らはその上にある寮に住んでいました。斜め向かいには倉庫があって、その上が女子寮、最上階が社長一家の自宅。当時男子は北海道、女子は鹿児島の出身者が多かったんです。関東圏から人はなかなか来てくれませんでしたから。

して立ち行かなくなりました。

鈴木 私は直後に入社した新人で、大変さを実感する立場ではありませんでしたが……。仕入れ先の倒産でどうして当社が厳しい状況になったかといえば、現金を貸していたんです。各メーカーさんから、当社に対して与信面でかなり厳しい対応があったと聞いています。

野本 うちが倒産すると困るので、在庫を買いに来たメーカーさんもあったし、取引を断って来たメーカーさんも、逆にうちと苦勞を共にしようというところもありましたね。幸い主力メーカーさんは変わらず取引してくださったので、ことなきを得ました。

松倉 もう一つ、ここにいる4人全員が経験した、イシグロ第二の危機が2001年にありました。

鈴木 11月の主力販売先の倒産ですね。当社は12億のひっかかりがあった。

松倉 よく覚えていますが、仕入れ先が不安に思っ、前払いの要求や取引停止もありました。

小林 オーダーを出してもイシグロさんには渡せないと言われて、えっ、そんなに厳しいのかと、危機を目の当たりにした記憶があります。

松倉 今でもいろいろな倒産で債権者リストを見ますが、この業界の中ではあのときの債権金額を超えるのは見たことがありません。ただ、おかげでみんな営業の足腰が強くなりました。とにかく努力してやるしかないという気概が湧いた。よく耐えて、乗り越えて、それが次への原動力になりました。会社全体がそんな雰囲気でしたね。

小林 一丸となって頑張ろう、と。

松倉 これを契機に3代目の雅昭社長が退いて、翌年現在の克司社長になった。役員もすべて交代して心機一転、新生イシグロの体制に変わりました。



松倉 採用が難しかったんです。

野本 ええ、それで社長の奥さんの弟である野中常務が北海道や鹿児島へリクルートに行っていました。30名ぐらい採用しても、1年でほしい半分いなくなっちゃう。

鈴木 昭和40年代後半といえば、高度成長期の真っただ中、人材は引く手あまただったでしょうね。

野本 そうです。中学を卒業した若者たちが金の卵といわれた時代ですから。

松倉 私は平成5（1993）年入社ですから隔世の感がありますが、人材確保に力を入れていたのは同じですね。ちょうどバブルが弾けた頃。私は中途採用ですが、第二新卒として就職雑誌、たしかビーイングだったと思います。それに見開きで募集広告を掲載するなど、お金をかけて大卒の人間を入れていこうという、会社の強い意志を感じました。一緒に相当の人数が入社しましたよ。15人はいたんじゃないかな。

小林 平成5年ならこのビルが建った頃では？

松倉 ええ。最初の仕事はピカピカのビルへの引っ越しでしたから。すごい本社ビルだなあ、とえらく感動した覚えがあります。

危機を好機に！ ピンチで見える底力

鈴木 これまでを振り返って、いちばん強く印象に残っているのは、「危機」のときのことですね。最初がさつきもお話した、51年の東洋バルブの倒産。

野本 あの当時、日本で三番目だか四番目だかの倒産でした。東洋バルブは名前の通り当時東洋一のバルブメーカーでしたが、一番景気が悪いときに設備投資

小林 それからの伸長は、目覚ましいものがあります。

松倉 一気に成長が加速しましたね。新規営業拠点に加え、グループ会社も増えました。お客様目線での即納体制も、お陰様で好評をいただいております。

鈴木 西日本の展開を強化してグループ会社を増やし、海外展開に取り組んで、300億の会社を600億に伸ばしてきた。それがここ15年です。

歴代社長の時代と その施策

小林 歴代社長の足取りを振り返りますと、卸売を中心に手を広げたのが初代社長の時代。2代目の安廣社長のとくに、直販に力を入れ始めています。

野本 私が入社した70年代の初めに営業所があったのは、横浜と札幌だけ。入った直後に千葉にできました。私は千葉の初代営業マンですから、よく覚えています。本格的に規模を大きくしていったのは、2代目社長の80年代に入った頃からです。

小林 「東北に進路をとれ」ですね。これをスローガンに、東北各県に自前の営業所を展開していきました。

野本 設備関係に進出したのもこの時代です。当時は2代目が卸、当時専務だった3代目が設備関係と分担していました。

小林 2代目社長も電力関係などを軒並み回って、ユーザ1開拓に努めたと聞いています。西日本進出は、3代目雅昭社長になってから。海外品に注目したのも3代目です。ただちよっと時期尚早でした。海外品は今ではポピュラーですが、当時はまだ実際の品質も日本でのイメージもよくありませんでしたから。

鈴木 3代目雅昭社長の時代は、近代化を進めて、足も

イシグロの名物イベント 「社員旅行」

平成29年度 札幌社員旅行(平成29年7月)



3年に1度、全社を挙げての恒例行事が、社員旅行だ。

昔はご多分に漏れず箱根の旅館で大広間にずらりと膳を並べて…という宴会スタイルだったが、夜に行われる一大パーティに出席して一泊する他はすべて時間も費用もフリーというスタイル。

全国の支店・営業所はもちろんグループ会社の方も参加するので、ふだんメールや電話だけでしかやり取りをしない社員同士が顔を合わせる絶好の機会となっている。

家族も参加できるので、前回の札幌への社員旅行では夫婦や家族連れの姿が目についた(写真はそのとき記念に撮られたもの)。とはいえ、昨今はグループ会社全体の社員数が増加の一途。

今回は2派4班に分けて実施したが、今後どう運営するかが課題だ。



MEMORIES

人を育て、人に生かされてきた80年

とをしつかり固めた時代でしたね。コンピュータ投資も一気に進めました。

松倉 本社ビル、東京ステーションと設備投資も盛んに行っています。岡山にも素晴らしい事務所を建てて。

鈴木 インフラ投資だけでなく、社員に投資していますね。教育にも熱心で海外も含めてさまざまな研修を実施しています。

野本 それまでは教育といえばOJT。当時でも教育制度があるのは、一部の大手企業だけでした。

鈴木 当社の規模でこれほどきちんと研修を実施したというのは、本当にすごい、稀有なことだと思います。こうした歴代社長の基礎固めがあって、現社長になつてからの目覚ましい伸長があるのだと思いますね。

イシグロを特徴づける「力」とは

松倉 教育研修の効果もあるんですけどね、今の社員は優秀ですよ。お客さんに対して提案やプレゼンをきちっとできるようになってきています。

鈴木 人を重視して大切にしてきた成果もあると思いますね。毎年必ず30名近い人材を新卒で入れ続けて、リーマンショックのときですらいつも通り採用しましたから。

松倉 リストラって記憶にないですよ？ 採用の手を止めず、景況感が極めて悪いときも、うち自体がピンチのときも、僕が知る限り人減らしはしていません。

鈴木 そういえば東洋バルブ倒産の翌年、私が入社したときの同期も20名くらいいました。

松倉 当社の強みといえば、やはり「人」。ピンチをチャンスに変えてV字回復を遂げてきた底力、それから先



を読んでいち早く手を打つ先見性もありますね。東北に目を付けたのも、それまで九州を拠点にしていた半導体メーカーが東北に目を移した兆しを読んだことだと聞いています。

小林 東京ステーションの新設も、幕張新都心計画を見越して手を打っています。

鈴木 真面目で礼儀正しい社員が多いのも、当社の強みというか特長でしょうか。それから、誰よりもトップがよく働くことも。

野本 今の社長もそうですが、昔から動き回っていますね。どんどんお客さまのところを回って、「お宅の社長しよっちゅう来るね」と取引先に言われたものです。

鈴木 将来的なことといえば、まだまだ夢のある会社ですよ。

松倉 直近では「日本の配管機材業界で断トツのナンバーワンになること」をスローガンにしてきました。ここからさらに「日本で断トツ」へ、さらに「アジアで一番」といった風に頑張っていかなければいけないし、実際に伸びていく会社だと思います。

鈴木 いまグループで640億ですが、いずれ近いうちに1千億を達成したいですね。

松倉 専門商社の枠を超えて、いろいろやりたいし、やってほしい。

小林 10年先の夢の行方に期待したいですね。